

松南地区社協

松南地区生活支援員だより№9

令和3年度の6月23日と7月21日に「子供たちは今」と題して、松南地区地域ケア会議が行われました。「松本市の子どもの現状について」のお話を伺ったあと、グループワークを行い、地区の子どもたちの様子を話し合いました。・どのような声が聞かれたのでしょうか？

子どもの姿が見えない。
(外遊びをしている子
をみない。見かけても
ゲームをしている。)

よく子どもが泣い
ているという情報が
民生委員にはいる。



少子化で子供のいる
家庭が減少、母子家庭
も多く、青山様、三九
郎を担う体力がない。

ネットと子どものつ
きあいに不安がある。
子どもが見えない、
子どものことがわか
らない。

コンビニで食事的
なものを買ってい
る子どもがいる。

話の中で「虐待」「ネットと子どもたち」「貧困」「地域でのつながりの希薄化」等の話題があがりました。虐待ではないかと思ってもどうしたらいいかわからない。ネットと子どもの付き合い方に不安がある。子どもが見えない、わからない。地域での伝統行事も明らかに衰退の危機である、何かしらの対策が必要ではないか・・・問題がすぐに解決するわけでもありませんが、問題の共有をできたことはよかった。SOSを出しやすい環境づくりが必要なのは・・・と様々な意見が聞かれました。子どもを取り巻く問題は、目に見えない部分でもあるので、地域の皆さんと情報共有して、見守る体制づくりができるきっかけづくりになればいいなと思いました。

新型コロナウイルス感染症についてのアンケート調査報告書より

松本市では、令和2年11月から12月下旬に、新型コロナウイルス感染症による子どもたちの生活実態や意識の変化を把握するためのアンケート調査を実施しました。

6月の松南地区地域ケア会議で子ども福祉課から示された標記調査報告書の概要版では、次のような結果が示されました。

～ 子ども（小学1年生から高校3年生迄）へのアンケート ～



○休業中の家での生活

全体の75%が、「休業中に家での過ごし方が変わった」と回答

内容は、・外に出ることが少なくなった。

・起床、就寝時間が変わった。（学年が上がるほど割合が増える傾向あり。）

○休業中にあった家庭内での「嫌なこと・困ったこと

全体の28%が、嫌なこと・困ったことがあったと回答

内容は、・家の外に出られないこと、親や兄弟とのケンカ、親や兄弟に怒られた。

（学年が下がるほど、親や兄弟とのトラブルを挙げる割合が高く、家の外に出られないことを挙げる割合が低い）

○学校の再開に関する反応

・嬉しかった . . . 65%

・悲しかった、嫌だった . . . 15%

嫌だった理由としては、「好きなことができたから」、「コロナがうつりそうだから」、「学校に行きたくないから」、「授業はつまらない」



～ 保護者へのアンケート ～

○休業期間中における子どもの世話の対応

・すべて自分で対応した . . . 34%で最も多い

・こどもの学年別では、低学年では「児童センターなどを利用した」が22%
中学生でもっとも多いのは、「子どもだけで留守番した」が40%

○学校の休業中、困ったこと、心配だったこと

・どの学年でも「学習の遅れ」をあげる親が多かった。（70%以上）

学年が下がるほど「子どもの面倒を見てくれる場所」「親の精神的負担」をあげる親が多い。

○感染拡大防止策が子どもらに与える影響について

・運動不足 . . . 54%

・学習の遅れ . . . 46%

・インターネットの利用増 . . . 46%

○子育てに関する悩みの相談相手について

「家族」（79%）「友人」（54%）を挙げる親が多い。

○その他

児童虐待に関する認識などについて

・「身の回りで児童虐待だと感じるケースを見た、聞いたことがある」23%

・「令和2年4月に、体罰の禁止が法律で定められたことを知っている」47%



コロナウイルス感染症の感染拡大が、子どもたちの生活環境に大きな影響を与えていることや、保護者が様々な悩みや不安を抱えていることが伺えます。

松南地区地域づくりセンター内
地区生活支援員：新田 洋子

TEL26-1083